

<特集「他動性」>

バスク語の他動性 Transitivity in Basque

石塚 政行¹, 吉成 奏慧²
Masayuki Ishizuka, Kanae Yoshinari

¹ 東京農工大学
Tokyo University of Agriculture and Technology

² 東京外国語大学言語文化学部
School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、『語学研究所論集』第19号（2014，東京外国語大学）の特集「他動性」におけるアンケート項目に対するバスク語のデータ，その簡単な解説およびコメントを提供する．

Abstract: This document provides Basque language data for the questionnaire from the featured theme “Transitivity” in the *Journal of the Institute of Language Research* No. 19 (2014, Tokyo University of Foreign Studies), along with brief explanations and comments.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001029>

キーワード：他動性，バスク語

Keywords: transitivity, Basque

1. はじめに

本稿のデータは、『語学研究所論集』第19号の特集「他動性」の調査項目を，スペインバスク地方ビスカヤ州出身のバスク語標準語（ビスカヤ方言の影響あり）の話者の方（1990年生まれ）にスペイン語から訳していただいたものである．媒介言語としてのスペイン語の文については，本論集の特集データのスペイン語のものをういたのでそちらを参照されたい．

2. データおよびコメント

以下，データを調査項目ごとに提示し，コンサルタントおよび石塚のコメントを付す．「C:」から始まるコンサルタントによる注記は，話者が英語で書いてくださったものを吉成が日本語に訳し，石塚が適宜編集したものである．「MI:」から始まる注記は石塚のものである．



本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します．
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

2.1. 直接影響・変化

a. 「彼はそのハエを殺した」

- (1) *Har-k euli-a hil z-u-en*
 that(DIST)SG-ERG fly-DEF.SG[ABS] kill.PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

b. 「彼はその箱を壊した」

- (2) *Har-k kutx-a apur-tu z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG box-DEF.SG[ABS] break-PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

c. 「彼はそのスープを温めた」

- (3) *Har-k zopa hori bero-tu z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG soup that(MED)[SG.ABS] heat.up-PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

MI: (1)~(3) はいずれも典型構造であり、主語は能格、目的語は絶対格で標示されている。6点。

d. 「彼はそのハエを殺したが、死ななかった」

C: 「殺す」と「死ぬ」は同じ動詞なので言えません。「殺す」の類語 *akabatu* 「始末する」などを使っても意味不明な文になる。

MI: *hil* 「殺す」は自動詞として「死ぬ」の意味にもなる。一般に、バスク語の他動詞はそのままの形で自動詞にすることが可能。

2.2. 直接影響・無変化

a. 「彼はそのボールを蹴った」

- (5) *Pilot-a-ri ostiko egin z-i-o-n.*
 ball-DEF.SG-DAT kick[ABS] do.PFV PST.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG[3SG.ERG]-PST

MI: 主語は能格だが、「ボール」は与格で標示されている。全体としては、軽動詞 *egin* 「する」が目的語 *ostiko* 「蹴り」を取る構造になっている。

b. 「彼女は彼の足を蹴った」

- (6) *Hank-an ostiko egin z-i-o-n.*
 leg-[SG]LOC kick[ABS] do.PFV PST.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG[3SG.ERG]-PST

MI: 主語は能格だが、「彼」は与格、「足」は位置格で標示されている。(5) と同じく軽動詞 *egin* 「する」が目的語 *ostiko* 「蹴り」を取る構造。

c. 「彼はその人にぶつかった (故意に)」

(7) *Pertsona horr-en kontra talka egin z-u-en.*
 person that(MED)SG-PGEN against crash[ABS] do.PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST
 「彼はその人に対して激突をした」

d. 「彼はその人とぶつかった (うっかり)」

(8) *Pertsona horr-ekin tupust egin z-u-en.*
 person that(MED)SG-COM bump[ABS] do.PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST
 「彼はその人と衝突をした」

C: (7) と (8) は衝突の激しさが違う二つの動詞. 意図は関係ありません.

MI: (7) の *talka egin* のほうが (8) の *tupust egin* よりも激しい衝突を表す. いずれも主語は能格だが, 「その人」は (7) では後置詞 *kontra* 「～に対して」, (8) では共格で標示されている. (5)～(6) と同じく, 軽動詞 *egin* 「する」が目的語 *talka* 「激突」, *tupust* 「衝突」を取る構造.

2.3. 知覚 2A vs. 2B

a. 「あそこに人が数人見える」

(9) *Hor zenbait pertsona ikus da-i-te-zke.*
 there(MED) some person[ABS] be.seen PRS.3.ABS-INTR(NIND)-PL.ABS-POT

MI: 自動詞文. 主語は「人が数人」であり, 見る主体は文中で表現されていない. また, 可能法が用いられている.

b. 「私はその家を見た」

(10) *Etxe hori ikus-i n-u-en.*
 house that(MED)[SG.ABS] see-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR-PST

MI: 典型構造.

c. 「誰かが叫んだのが聞こえた」

(11) *Norbait-en garrasi-a entzun z-en.*
 someone-PGEN scream-SG[ABS] be.heard.PFV PST.3[SG]ABS.INTR-PST
 「誰かの叫びが聞こえた」

MI: 自動詞文. 主語は「誰かの叫び」であり, 聞く主体は文中で表現されていない. 直説法遠過去.

d. 「彼はその音を聞いた」

(12) *Har-k soinu hori entzun z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG sound that(MED)[SG.ABS] hear.PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

MI: 典型構造.

2.4. 発見・獲得・生産など

a. 「彼は（なくした）カギを見つけた」

(13) *Har-k (gal-du-ta-ko) giltz-a aurki-tu z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG (lose-PFV-RES-ADN) key-DEF.SG[ABS] find-PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

MI: 典型構造.

b. 「彼は椅子を作った」

(14) *Har-k aulki bat egin z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG chair IDEF.SG[ABS] make.PFV PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-PST

MI: 典型構造.

2.5. 追及

a. 「彼はバスを待っている」

(15) a. *Autobus-a-ren zain da-go.*
 bus-DEF.SG-PGEN waiting PRS.3[SG]ABS-be.there
 b. *Autobus-a-ri itxaro-te-n ari da.*
 bus-DEF.SG-DAT wait-GER-LOC engage PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: (15a) は後置詞 *zain* 「待っている」を用いた自動詞文。「バス」は所有属格になっている。(15b) は動詞 *itxaron* 「待つ」の進行形で、「バス」は与格である。主語は絶対格になっているが、これは進行形を構成する動詞 *ari* が自動詞であるためである。

b. 「私は彼が来るのを待っていた」

(16) *Hura noiz etorr-i-ko zain nen-go-en.*
 that(DIST)SG.ABS when come-INF-FUT waiting NPRS.1SG.ABS-be.there-PST
 「私は彼がいつ来るか待っていた」(?)

MI: この文に関しては不明点が2つある。(i) 未来分詞が非定形補文を作っているように見える。(ii) 後置詞 *zain* が間接疑問文を補語にしているように見える。以上の2点の分析が正しければ、「彼が来る」

は補文になっているが, 主語は絶対格の自動詞構造である.

c. 「彼は財布を探している」

- (17) a. *Eskuzorro-a bila-tze-n ari da.*
 wallet-DEF.SG[ABS] search-GER-LOC engage PRS.3[SG]ABS.INTR
 b. *Eskuzorro-a-ren bila ari da.*
 wallet-DEF.SG-PGEN in.search engage PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: (17a) は動詞 *bilatu* の *ari* による進行形. 目的語「財布」は他動詞 *bilatu* が, 主語「彼」は自動詞 *ari* が支配しているので, どちらも絶対格になっているが, *bilatu* 自体は典型構造が可能. (17b) は後置詞 *bila* が用いられており, 「財布」は所有属格, 主語は絶対格.

2.6. 知識 1

a. 「彼はいろんなことをよく知っている」

- (18) *Har-k gauza asko da-ki.*
 that(DIST)SG-ERG thing many[ABS] PRS.3[SG]ABS-know[3SG.ERG]

MI: 典型構造.

b. 「私はあの人を知っている」

- (19) *Har-k pertsona hori ezagu-tzen d-u.*
 that(DIST)SG-ERG person that(MED)[SG.ABS] know-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]
 「彼はあの人を知っている」

MI: 典型構造.

c. 「彼はロシア語ができる」

- (20) *Har-k errusiera-z da-ki.*
 that(DIST)SG-ERG Russian-INST PRS.3[SG]ABS-know[3SG.ERG]

MI: 「ロシア語」は具格, 主語は能格. 「ロシア語について知っている」という感じで, 典型構造ではない.

2.7. 知識 2

a. 「あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？」

- (21) *Gogo-an d-u-zu*
 memory-[SG]LOC PRS.3[SG]ABS-have-2SG.ERG

atzo esan n-i-zu-n-a?

yesterday say.PFV PST.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR.DAT-2SG-REL-SG[ABS]

MI: 典型構造.

b. 「私は彼の電話番号を忘れてしまった」

(22) *Ber-e telefono zenbaki-a ahaz-tu d-u-t.*

3-SG.PGEN telephone number-SG[ABS] forget-PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG

MI: 典型構造.

2.8. 感情 1

a. 「母は子供たちを深く愛していた」

(23) *Ama-k ume-a oso maite z-u-en.*

mother-ERG child-DEF.SG[ABS] very loved PST.3[SG]ABS-have[3SG.ERG]-PST

「母はその子供をとて愛していた」

MI: 典型構造. ただし, 「子供」は他動詞 *zuen* (*izan* 「持つ」の過去形) の目的語であると同時に, 形容詞 *maite* 「愛されている」の主語でもあるという変則的構造である (このような所有コピュラ文については石塚 2022 を参照).

b. 「私はバナナが好きだ」

(24) a. *Ni-k banan-ak gustuko d-it-u-t.*

1SG-ERG banana-PL[ABS] pleasant PRS.3.ABS-PL.ABS-have-1SG.ERG

b. *Ni-k banan-ak atsegin d-it-u-t.*

1SG-ERG banana-PL[ABS] pleasure[ABS] PRS.3.ABS-PL.ABS-have-1SG.ERG

c. *Ni-ri banan-ak gusta-tzen zai-zki-t.*

1SG-DAT banana-PL[ABS] please-IPFV PRS.3.ABS.INTR.DAT-PL.ABS-1SG

MI: (24a) と (24b) は典型構造. ただし, (23) と同様に, 「バナナ」は他動詞 *ditut* (*izan* 「持つ」の現在形) の目的語であると同時に, 形容詞 *gustuko* 「好ましい」や名詞 *atsegin* 「喜び」の主語でもあるという変則的構造である. (24c) は「私」が与格, 「バナナ」が絶対格の自動詞文.

c. 「私はあの人が嫌いだ」

(25) (*Ni-k*) *Pertsona hori gorroto d-u-t.*

(1SG-ERG) person that(MED)[SG.ABS] hatred[ABS] PRS.3[SG]ABS-have-1SG.ERG

MI: 典型構造. ただし, (23) と同様に, 「あの人の人」は他動詞 *dut* (*izan* 「持つ」の現在形) の目的語であ

ると同時に, 名詞 *gorroto* 「憎しみ」の主語でもあるという変則的構造である.

2.9. 感情 2

a. 「私は靴が欲しい」

(26) *Zapat-ak nahi d-it-u-t.*
 shoe-PL[ABS] want PRS.3.ABS-PL.ABS-TR-1SG.ERG

MI: 典型構造. 動詞 *nahi* 「欲しい」は (23) のような変則的構造に由来するが, 動詞化していると考えられる.

b. 「今, 彼にはお金が要る」

(27) *Orain (har-k) diru-a behar d-u.*
 now (that(DIST)SG-ERG) money-SG[ABS] need PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

MI: 典型構造. 動詞 *behar* 「必要だ」は (26) の *nahi* と同じく, (23) のような変則的構造に由来するが動詞化していると考えられる.

2.10. 感情 3

a. 「(私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている」

(28) *Ama (ni-re) anai-a-rekin haserre da-go*
 mother[ABS] (1SG-PGEN) brother-DEF.SG-COM angry PRS.3[SG]ABS-be.there
gezurr-a esan d-u-elako.
 lie-SG[ABS] say.PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-because
 「母は弟がうそをついたから怒っている」

MI: 形容詞文. 「母」は絶対格, 「弟」は共格, 「うそをついたこと」は理由節で表現されている.

b. 「彼は犬が怖い」

(29) a. *Txakurr-e-i beldur d-i-e.*
 dog-PL-DAT fear[ABS] PRS.3[SG]ABS-have.DAT-3PL[3SG.ERG]
 b. *Txakurr-en beldur da.*
 dog-PL.PGEN afraid PRS.3[SG]ABS.be

MI: (29a) は「犬に恐れを持っている」で, 「彼」は能格, 「犬」は与格. (29b) は形容詞文で, 「彼」は絶対格, 「犬」は所有属格.

2.11. 関係1

a. 「彼は父親に似ている」

- (30) *Har-k aita-ren antz-a d-u.*
 that(DIST)SG-ERG father-PGEN resemblance-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS-have[3SG.ERG]

MI: 「彼は父親との類似性を持っている」という感じで、「彼」は能格, 「父親」は所有属格.

b. 「海水は塩分を含んでいる」

- (31) *Itsaso-ko ur-a-k gatz-a d-u.*
 sea-[SG]LGEN water-SG-ERG salt-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS-have[3SG.ERG]

MI: 典型構造の所有文.

2.12. 関係2

a. 「私の弟は医者だ」

- (32) *Ni-re anai-a mediku-a da.*
 1SG-PGEN brother-DEF.SG[ABS] doctor-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS.be

MI: 自動詞コピュラ文. 「医者」は絶対格.

b. 「私の弟は医者になった」

- (33) *Ni-re anai-a mediku egin da.*
 1SG-PGEN brother-DEF.SG[ABS] doctor become.PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: 自動詞文. 「医者」は絶対格だが, (32) が冠詞付きなのに対し, 裸名詞が用いられている.

2.13. 能力1

a. 「彼は車の運転ができる」

- (34) a. *Har-k gida-tu de-za-ke.*
 that(DIST)SG-ERG drive-INF PRS.3[SG]ABS-TR(NIND)-POT[3SG.ERG]
 「彼は運転できる」

- b. *Har-k kotxe-a gida-tze-n da-ki.*
 that(DIST)SG-ERG car-DEF.SG[ABS] drive-GER-LOC PRS.3[SG]ABS-know[3SG.ERG]
 「彼は車を運転することができる」

MI: (34a) は動詞 *gidatu* 「運転する」の可能法現在形. 「運転」は動詞で表されている. (34b) は「車を運転すること」という動名詞句の裸位置格形が, 動詞 *jakin* 「～する仕方を知っている」の補語になってい

る.

b. 「彼は泳げる」

- (35) a. *Har-k igeri-an da-ki.*
 that(DIST)SG-ERG swim-[SG]LOC PRS.3[SG]ABS-know[3SG.ERG]
 b. *Har-k igeri egi-te-n da-ki*
 that(DIST)SG-ERG swim[ABS] do-GER-LOC PRS.3[SG]ABS-know[3SG.ERG]
 c. *Har-k igeri egin de-za-ke.*
 that(DIST)SG-ERG swim[ABS] do-INF PRS.3[SG]ABS-TR(NIND)-POT[3SG.ERG]

MI: (35a) と (35b) は (34b) と同じく動詞 *jakin* 「～する仕方を知っている」を用いた文. (35a) は名詞 *igeri* 「泳ぎ」の位置格, (35b) は動名詞句 *igeri egiten* 「泳ぎをすること」の位置格を補語にしている. (35c) は *igeri egin* 「泳ぎをする」の可能法現在形.

2. 14. 能力 2

a. 「彼は話をするのが上手だ」

- (36) a. *Hitz egi-te-n trebe-a da.*
 talk[ABS] do-GER-LOC competent-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS.be
 b. *Ondo hitz egi-ten du.*
 well talk[ABS] do-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]
 「彼は上手に話をする」

MI: (36a) は形容詞文. 動名詞句 *hitz egiten* 「話をする事」の位置格が補語になっている. (36b) では「上手」は副詞 *ondo* によって表現されている.

b. 「彼は走るのが苦手だ」

- (37) *Korrika egi-te-n trakets-a da.*
 run[ABS] do-GER-LOC clumsy-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS.be

MI: 形容詞文. 動名詞句 *korrika egiten* 「走りをする事」の位置格が補語になっている.

2. 15. 移動

a. 「彼は学校に着いた」

- (38) *Eskola-ra hel-du da.*
 school-[SG]ALL arrive-PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: 自動詞文. 「学校」は方格.

b. 「彼は道を渡った／横切った」

(39) *Bide-a gurutza-tu d-u.*
 way.DEF.SG[ABS] cross-PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

MI: 典型構造.

c. 「彼はこの道を通った」

(40) *Bide hon-etatik pasa-tu da.*
 way this.SG-ABL pass-PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: 自動詞文. 「この道」は奪格で, 中間経路・経由地を表している.

2. 16. 感覚 1

a. 「彼はお腹を空かしている」

(41) *Gose da.*
 hungry PRS.3[SG]ABS.be

MI: コピュラ文.

b. 「彼は喉が渴いている」

(42) *Egarri da.*
 thirsty PRS.3[SG]ABS.be

MI: コピュラ文.

2. 17. 感覚 2

a. 「私は寒い」

(43) *Hotz na-iz.*
 cold PRS.1SG.ABS-be

MI: コピュラ文.

b. 「今日は寒い」

(44) *Gaur hotz egi-ten d-u.*
 today cold[ABS] do-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

MI: 非人称他動詞文. 主語名詞句はないが, 助動詞が能格三人称単数の一致 (ゼロ標示) を示している.
hotz 「寒さ」を裸絶対格の目的語と考えることができる.

2. 18. (社会的) 相互行為 1

a. 「私は彼を手伝った／助けた」

(45) *Ni-k (har-i) lagun-du n-i-o-n.*
1SG-ERG (that(DIST)SG-DAT) help-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR-PST

MI: 「私」は能格だが「彼」は与格.

b. 「私は彼がそれを運ぶのを手伝った」

(46) *Ni-k (har-i) hori erama-te-n lagun-du n-i-o-n.*
1SG-ERG (that(DIST)SG-DAT) that(MED)[SG.ABS] carry-GER-LOC help-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR-PST

MI: 「私」は能格, 「彼」は与格, 動名詞句 *hori eramaten* 「それを運ぶこと」は位置格.

2. 19. (社会的) 相互行為 2 (言語行動)

a. 「私はその理由を彼に聞いた」

(47) *Arrazoi-a zein z-en galde-tu n-i-o-n.*
reason-SG[ABS] what[ABS] PST.3[SG]ABS.be-PST ask-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-PST
「私は理由が何なのかを彼に聞いた」

MI: 典型構造. 「理由が何であるか」という補文節を取っている.

b. 「私はそのことを彼に話した」

(48) *Hori konta-tu n-i-o-n.*
that(MED)[SG.ABS] tell-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-PST

MI: 典型構造. 「そのこと」が絶対格.

2. 20. 再帰・相互

「私は彼と会った」

(49) *Ni-k hura ikus-i n-u-en.*
1SG-ERG that(DIST)SG.ABS see-PFV NPRS.1SG.ERG.3[SG]ABS-TR-PST

MI: 典型構造.

3. 点数のまとめ

	バスク語	総点	パーセント
直接影響・変化 1abc	6	6	100.0 %
直接影響・無変化 2abcd	0	8	0.0 %
受動知覚 3ac4a	2	6	33.3 %
能動知覚 3bd	4	4	100.0 %
作成 4b	2	2	100.0 %
追求 5abc	1	6	16.7 %
知識 6abc7ab	8	10	80.0 %
感情 1 好悪 8abc	6	6	*100.0 %
感情 2 需要 9ab	4	4	*100.0 %
感情 3 怒り・恐怖 10ab	0	4	0.0 %
関係 1 11ab	2	4	50.0 %
関係 2 12b	0	2	0.0 %
能力 1 13ab	1	4	25.0 %
能力 2 14ab	0	4	0.0 %
移動 15abc	2	6	33.3 %
感覚 1 16ab	0	4	0.0 %
感覚 2 17ab	2	4	50.0 %
社会行為 18ab	0	4	0.0 %
言語行動 19ab	4	4	100.0 %
相互 20	2	2	100.0 %
合計	46	94	48.9 %

執筆者連絡先 : ishizuka@go.tuat.ac.jp

原稿受理 : 2024 年 12 月 30 日